

高尾山山頂から発信！

のぶすま



季刊
vol.58
2020年冬号

蛾の繭

八王子市といえば、『桑の都』。

繭と聞くとカイコを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

高尾山には山に暮らす、繭を作るいろいろなガがいます。

何のために作るの？

繭は幼虫が蛹になる時に作る、成虫に変態する間の

無防備な期間に身を守る大切なシェルターです。

蛹の期間に乾燥せず、適温を保ち、太陽の紫外線や

雨水から守るような機能があります。

葉が落ちる冬は、枝や幹についている繭を見つけやすい季節です。

ガの種類によって、緑色や茶色のもの、枝や葉を使ったものまで個性豊かです。

そんなガの幼虫たちが作る繭の世界をご覧ください！



のぶすまくん



Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

2018年の4月より、Twitter・Facebookをはじめました！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
では、10月～12月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

キッコウハグマがたくさん開花！（2019/11/5）



前号の「解説員のいちおし」コーナーで紹介したキッコウハグマ！
閉鎖花が多いので、開花している花を見つけれたらラッキーと解説員内でも注目していました。今年は3号路をはじめ、4号路でもたくさんの開花がみられ、当たり年だったようです。

解説員
こらむ
vol.20

夜の高尾山の友達

日中に高尾山を歩いていると、夜にムササビが植物の葉などを食べた痕をよく見かけます。それを発見できた時は、嬉しさのあまり「あー」と声が出てしまいます。その食べられた葉っぱを手に取り、葉っぱのどの部分をムササビが持って食べたのだろうか？と想像を膨らませています。そして葉っぱを触ることで、間接タッチをしていることになるなあとニヤニヤして幸せな気分になっています。

ある11月の夜のこと。この日は偶然、一人で下山することになりました。しかし私は小学生の頃、父親と二人で夜にクワガタムシ採集に行き、はぐれるという経験をして以来、夜の森が怖いのです。

薬王院に着くと、人の気配がなく、静まり返った空気が感じられ、子どもの頃に怖いと感じた空気と似ていると思い少し緊張しました。その時、突然、「グルルルル」という声が響きました。ムササビです！少しづつ鳴き声が大きくなり、ガサガサと木の葉が揺れる音が聞こえ、黒い物体が空を舞いました。出会えた時、私は不思議とホッとしていました。

まだ夜の森は怖い気持ちがあります。しかし、これまで何度もムササビの食痕を拾っていたことで、自然と親しみが湧き、心細い時に親しい友達に会ったような安心感が生まれていることに気付きました。一方通行の感情ですが、いつまでも友達でいたいと密かに思っています。

〈解説員 おざき〉

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2020年冬号 vol.58

東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成 2020年1月10日発行

所在地：〒193-0844 東京都八王子市高尾町 2176 電話：042-664-7872 FAX：042-662-9926

（公式ホームページでカラー版最新号を閲覧できます）



絵・作：さとう(ま)

高尾山の れまし vol.20

人々の想いがつなぐ、 高尾山のケーブルカー

環境省の統計によると、平成29年度の明治の森高尾国定公園の利用者数はおよそ435万人。そんな多くの登山者の強い味方として欠かすことができない「高尾山のケーブルカー」の歴史を辿ります。

高尾山のケーブルカーの歴史は大正初期、当時関東に30万人とも言われる信徒を抱えた高尾山薬王院貫首の発案に端を発します。

ケーブルカーを敷設し、来山する信徒の足の便を図ることで、より多くの人々に仏教の教えを広めることができるとし、さらには来山者が増えることで、周辺地域が経済的に潤うとの見通しもあったようです。この発案に地域の有力者たちが協力し、計画がスタート。大正10年9月29日「高尾索道株式会社※」が誕生します。

この頃、国内で開業していたケーブルカーは生駒鋼索鉄道のみであり、高尾山のケーブルカーは日本のケーブルカーの歴史から見ても先駆的な存在でした。それ故に、建設工事は技術的前例にも乏しかったといえます。さらに、高尾山のケーブルカーで最も急な所は31度18分。ケーブルカーとしては日本一の急勾配を誇りますが、当時の荷揚げは「馬力」が唯一の輸送手段。これほどの急斜面を切り拓いての工事はどれほど大変だったことでしょうか。また、工事に着手する前には関東大震災に遭い、高尾山駅の予定地が崩壊。計画の変更を余儀なくされます。こうした数々の困難を乗り越え、昭和2年1月21日、高尾山のケーブルカーはついに営業を開始します。

開通当初は、物珍しさと薬王院や武蔵陵墓地（多摩御陵）への参拝者の増加により、予想以上の好況を呈します。しかし、その後の経済不況と太

平洋戦争の勃発、戦局の悪化により昭和19年2月11日、ケーブルカーは不要の鉄道施設として休業に追い込まれてしまいます。このとき、車両はもちろん巻上機械や電気設備などの機材は全て戦争資材として供出し、残ったのはレールが取り払われた軌道敷のみであったそうです。

その後、戦争は終結を迎えますが、戦後の混乱期の中では物資も乏しく、復活までの道のりもまた一筋縄にはいかなかったようです。それでも関係者の復活へかける想いは強く、昭和24年10月16日、高尾山のケーブルカーは休業から5年8か月ぶりに悲願の復活を遂げ、今日に至るまでこの山を訪れる多くの人々を乗せて運行を続けています。

日々の安全運行は、職員のみさんの並々ならぬ努力によって支えられています。今秋、高尾山にも大きな爪痕を残した台風19号通過直後には、職員の皆さんが全身泥まみれとなり、昼夜を問わず復旧作業に当たる姿を目の当たりにし、感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。高尾山のケーブルカーの歴史は、その運行を支える人と、利用する多くの人たちの思い出とともに、これからも刻まれていくことでしょう。

〈解説員うい〉

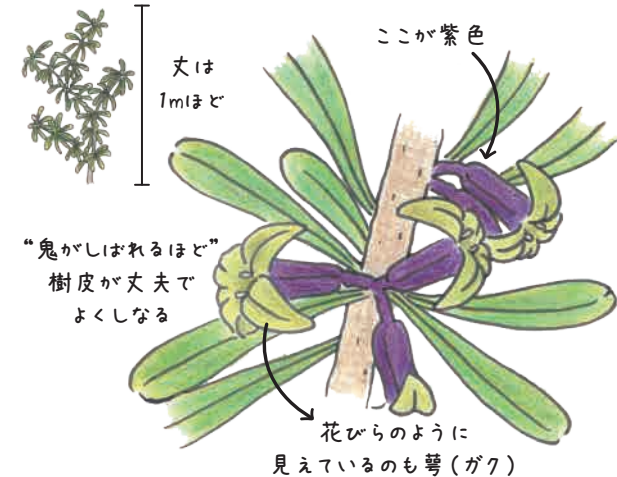
※その後商号変更の変遷を経て、現在は「高尾登山電鉄株式会社」。参考資料：高尾登山電鉄復活30年史、八王子市史研究第2号

解説員の

ちおし
vol.16

ムラサキオニシバリ

南高尾で初めて発見された、いぶし銀の存在感を放つ花



オニシバリの花のガクの外面が紫色になるものをこの名で呼ぶことがあり、高尾周辺ではこのタイプをよく見かけます。花は、まだ寒さ厳しい2月頃から咲き始め、出会えた時の喜びはまた格別！

観察適期…2月～4月
見られる場所…1・2号路、山頂、南高尾に多い

〈解説員 うめだ〉

カイコの繭より、
高級なシルクがとれる！

ウスタビガ

独特な形をしたパステルカラーの繭。

ヤママユ

鮮やかな黄緑色。5cmもある大きな繭。テンサンとも呼ばれています。

糸が何重にも重なっておりとても硬く頑丈

まさに芸術！

防御の工夫によって生み出された 芸術品の数々！

オオミズアオ

茶色の繭で、葉っぱに包まれて作られています。

クワコ

カイコの原種と言われていて、クワの木で見られます。カイコの繭と比べるとフワフワ。

葉に巻かれていた跡(葉脈)がくっきりと残っている！

ニトベミノガ

大きく切りとられた葉が貼り付けられています。

移動できる
ログハウス！

成長に合わせて
増築する

チャミノガ

小さく切られた木の枝が貼り付けられています。

イラガ

昆虫界最硬の繭。糸だけでなく、タンパク質などが塗られているため、硬くてできています。

繭は一本の糸からできいる

長さは種類によって異なりますが、糸の量が多ければしっかりとした硬さの繭となります。カイコは、クワコが糸をより多く出すように改良されました。なんとクワコに比べ、15倍も糸を出します。そのためクワコに比べて大きくしっかりとした硬い繭です。



まとめ

ガは、昆虫の中でも多様なグループで、日本国内では約6000種、高尾山がある八王子市では1423種が記録されています。高尾山は植物の種類が多いため、幼虫期に葉を食べるガの種類も多く生息しています。まずは、いろいろな繭を見比べてガの多様な世界をのぞいてみるのはいかがでしょうか？それぞれの繭の色・形を見ていると生き残るための工夫や、成虫になり空を飛ぶたいという思いが伝わってくるようです。

〈解説員 ふくざわ〉